

花粉-食物アレルギー症候群 TOPICS

について



●食物アレルギーとは

皆さんは食物アレルギーと聞いてどのようなイメージを持たれるでしょうか？子供の頃に発症し、成人では発症しないイメージをお持ちでないでしょうか。

食物アレルギーは乳児期に最も発症しやすい病気ですが、実は大人になってから発症・受診する場合も稀ではありません。（5%程度）今回は特に成人発症の食物アレルギーについてお話いたします。

食物アレルギーとは、食べ物を摂取した際に体内の免疫が過剰に反応してしまい、体にとって有害な反応が起こる現象とされています。乳糖不耐症（乳糖摂取で腹痛や下痢が起こる病気）やヒスタミン中毒などは免疫反応が関与しないため、厳密にはアレルギーとは呼びません。

●食物アレルギーの実際

食物アレルギーの原因として鶏卵・牛乳・ナッツなどがよく知られますが、これらは小児期発症で多い原因食物です。これらは成長とともに耐性を獲得する場合があります。

一方成人では甲殻類・小麦・魚類・果物・大豆などが多く、今まで問題なく食べられていても、ある時突然アレルギー症状を発症します。具体的にはじんましん（赤く膨れる皮疹）や呼吸困難、腹痛・下痢などが出現し、重篤になるとアナフィラキシーショックに移行して命に関わる場合もあります。また成人発症例では生涯に渡って原因食物の除去が必要とされることが多く、早期発見・早期介入が非常に大切です。成人発症の食物アレルギーには、化粧品に含まれるコチニール・魚に寄生するアニサキスなど多様な原因が隠れています。中でも近年、花粉症の方が果物・大豆などへのアレルギーを発症する「花粉-食物アレルギー症候群」が増えています。

●花粉-食物アレルギー症候群（PFAS）について

PFASとは花粉に対する免疫反応が特定の食物を摂取したときに起こってしまい、口の中のしびれやかゆみ、場合によってはアナフィラキシー反応がでる疾患です。健康人では食物に対する免疫反応は起こりませんが、花粉症（カバノキ科花粉が代表的）がある場合、花粉が持つタンパク質と果物・生野菜・大豆などのタンパク質が一部似ていることから、食物を花粉と誤認しアレルギー反応を起こす場合があります。（専門的には「交差反応」と呼びます）原因タンパク質は特定の種類の食物で共通していますので、一人の患者さんが多数の原因食物に反応することは珍しくありません。またPFASの特徴として、加熱すれば食べられることが多い、口腔アレルギー症状（口の中のかゆみなど）に留まる方が多いことが挙げられます。これは原因タンパク質が加熱や胃酸に弱く、全身症状を起こしにくいことが原因とされます。しかし1割程度の患者さんでは加熱に強いタンパク質が原因となる場合があり、時にアナフィラキシーなど重篤な症状を来す恐れがあります。また特に豆乳は、摂取量が多く吸収も早いことからアナフィラキシー症状を起こす場合があるので注意が必要です。

残念ながら現時点で有効な治療はなく、花粉症を治療しても食べられるようにはなりません。原因食物の除去が唯一の確立された治療です。

アナフィラキシーは時に致命的になるため、早期発見・早期診断が非常に重要です。当院では食物アレルギーに対する血液検査を行っており、原因食物の予測が可能です。確定診断には皮膚テストや食物負荷試験などが必要ですが、状況に応じて専門病院へご紹介いたしますので、食物アレルギーが疑われる患者様は一度当院へご相談ください。

総合診療科 青柴 直也



とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

人に暮らしに寄り添う

45th
ANNIVERSARY

AI予約専用番号

☎ 050-5526-6409